

第二話 夢

次に紹介する夢は、私が、祈り、待ち、我が人生についての主のご意志を求めるために、外界から自分を遮断していた七日間の（水を飲むだけの）断食の最中に訪れた。私は特に、キリストの体における自分の役割と、その中で私のなすべき主の働きについて、主のご意志を求めている。使徒パウロは第一コリント人のなかで、我々は神の望むままに主の体に配置されると述べている。この夢は、後ほど説明するように、何らかの象徴性を有している。

私は、広いバルコニーに立っている人を観察している。近づいてみると、この人が、輝く白い衣を身にまとい、言葉が書かれた幕ないしは看板を手にした主イエスであることを見て取る。主は、バルコニーの下を通り過ぎてゆく多くの人々を見下ろしておられる。主は、彼らが読むようにと看板を低く下ろすが、彼らは歩き続け、主が彼らに見せているものに興味を持たない。その幕には警告が書かれており、主は深い懸念と心配の表情で彼らの注意を喚起しようとしておられる。

その瞬間、我が身を差し出してお役に立てていただくため、主のおられる方に行きたい、という強い願望を感じる。私は主に向かって飛んでいるようであり、近づくにつれ、身のすくむ思いと畏敬の念に圧倒される。イエスは振り向いて私の顔を真っ直ぐご覧になり、主の両眼がじっと見つめる。お役に立ちたいという私の願望と、主による私の心の探査とは、暫くのあいだ続いているように思われる。それから、主はその手を私の方

に伸ばし、私はその手からその幕を受け取る。私はゆき、もう一度振り返ってイエスを見て、主に対して「主に聖霊の祝福あれ。」と言っている自分がいる。

すぐに、私はもっと大勢の人のいる多くの水の上を飛んでいる。私はあの言葉の書かれた幕を持っており、それをその人々に渡している。突然、水の中に大きな毒蛇のような生き物を発見し、そのけだものを避けよ、と多くの人に警告し始める。聞き入れる人もいるが、聞き入れない人々はその毒蛇に滅ぼされる。私は飛び続けて広大な水の浜辺に近づくと、その上に美しく威厳のある女がいるのを見る。彼女はその毒蛇と戦っている。彼女がその生き物と格闘していると、私は彼女の助太刀に飛んでゆく。私が持っている幕で、その毒蛇の頭が首のところで折れる。

この夢を理解することは、目が覚めた瞬間に始まった。私はキリストの体における自分の位置について主に伺ったので、主は、私の役目のひとつは警告の言葉を人々に発することとなろう、と知らせてくださったのだ。この義務は、私はいつもある程度負うことになり、忠告すること、譴責すること、説き勧められることも含まれることになろう。のちのち、神はさらに詳しく啓示されるであろう。この夢の中での「主に聖霊の祝福あれ。」という私の応答は、主に捧げられた感謝と賛美のひとつの形であった。聖霊は常にキリストを祝福し賛美する。夢の中での、主に仕えたいのに、主に近づくに値しないという圧倒される感じは、我々がやりとりできるレベルまで主が降りて来て私たちに会ってくださることの必要性を啓示している。我々は、主の

力なしではできなかった事を完遂できるようになるために、主を通して任命され恵みを授かる（力を与えられ可能にさせられる）のだ。

広大な水は多数の人間を象徴している。私が主に向かって飛んでゆき主のお役に立ちたいと申し出ることと、水の上を飛んでいることは、私が人々への主の使者であることを物語っている。ほとんどの人々は、彼らに対する主の恵みと厚意の申し出に注意を払わないので、神との永遠の別れへと向かっている。しかし主はそれでも、罪の結果と、それに続いてある日やって来る裁きについて警告するために、我々を送り出す。我々は福音の全体を宣言しなければならない — 慈愛と裁きの両方を。罪と悪魔は死への道、永遠に続く霊的な死への道であることを我々は警告しなければならない。そう、我々は神のことばの全てに対して忠実でなければならず、自分に心地よいことばだけに忠実であってはならない。神は、神の子をまさにお与えになったほどにこの世を慈しまれるのだが、神を拒絶する者たちは、ついには神の永遠の敵になった自分を見出すのだ。

我々が福音を証言しても多くの人々は反応しないのだから、勇気を失ってはならない。大衆は全体としては、反応しないであろう。なあに、大衆が「神の子」の言葉すらときとして拒絶したのであれば、彼らが我々の言うことを聞かなくてもそんなに驚くべきだろうか？ 神は最も完璧な証人をお与えになったのに、多くの者は受け入れなかったのだ。我々の役目は、ことばを宣言することと、そのことばに従って生きることを学ぶことだ。それ以外は全て神に任せよ。この夢の中での女は、威厳があり神に対して美しい、主の教会の象徴である。彼女は神と

人間の大敵サタンと戦う。私が言葉を持って近づき言葉が蛇の力ないしは頭を砕くことは、神のことばがあなを倒す力であることの象徴なのだ。

サタンは真の信者を憎む。真の信者はサタンに打ち勝つ力を持っているからだ。人類は全体としてはサタンの力にとって脅威ではないが、真の霊的な教会は彼の王国にとって現実の脅威である。我々はサタンの王国をこの地上で引き倒し押さえつけるための大いなる武器と力を我々の主から与えられている。なにしろ、地獄の門は、主に献身し神によって力を与えられた霊的な教会に勝つことができないのだ。私は、いかなる宗派的な教会をも意味しておらず、真の教会、すなわち、キリスト・イエスの支配に服し、キリストの言葉を守る、真の信者たちの一団を意味しているのである。そう、その教会こそが悪魔に打ち勝つ力を約束されているのだ。我々は、我々が行うべきだと記されているとおり、その敵の力を打ち砕くことができるのだ――キリストの力によって。マタイ伝16章18節を見よ。

「、、、わたしはわたしの教会を建てる。そして地獄の門はそれに勝つことができない。」（欽定訳）